

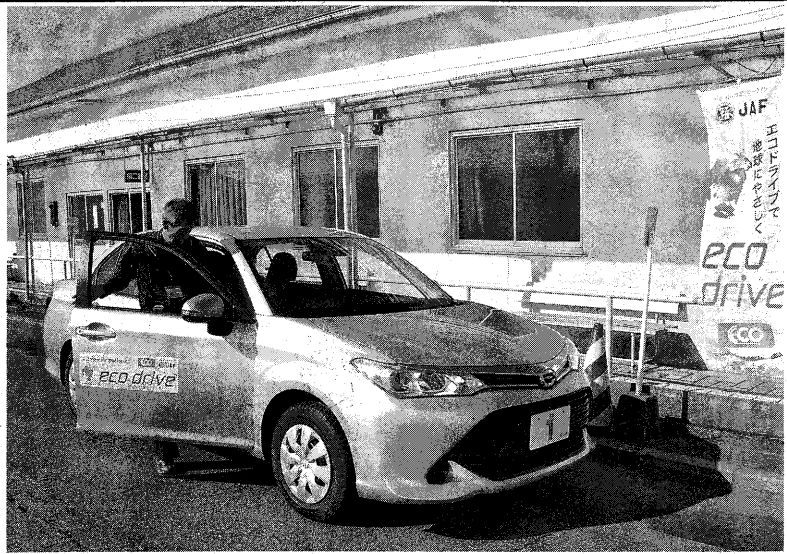
# エコ運転術を習得

## 急加速、急減速控える

UNCCA

宇部市地球温暖化対策ネットワーク(UNCCA)主催のエコドライブ教室は12日、妻崎開作の西日本自動車学校で12人が受講して開かれ、省エネルギーにつながる運転術を学んだ。市、日本自動車連盟(JAF)山口支部、宇部日報社など後援。

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)と開いた。CO<sub>2</sub>の国内総排出量の約2割を運輸部門が占めており、その



エコドライブチェックで車に乗り込む受講生(西日本自動車学校で)

中の半分を自家用車からの排出量が占めている。ハイブリッドカーの普及という技術的な追い風はあるが、一人一人のドライバーの環境に配慮した運転が求められている。

講師は西日本自動車学校(黒川文雄校長)とJAFのスタッフが務めた。受講者はまず構内のコースで普段通りに車を走らせ、燃費などの運転データを分析。座学でアクセルはゆつくりと踏み込む▽急加速、急減速の少ない運転▽アイドリングストップ、などのエコドライブテクニックを学んだ後、再び車を運転

し、最初のデータと比較した。

少し気を付けただけでエコドライブ評価が高くなったのに驚いた受講生もいた。運転歴35年という松原恵美子さん(東岐波立山)は「スムーズに運転する人を見て自分も学ぼうと参加した。エコにもつながれば」と話した。この日は動体視力のチェックや昼と夜で歩行者らの視認性が格段に違つなどを機械で体験。毎日のように車を運転するといふ重本満幸さん(69)

「宮地町」は「ハイブリッドカーに乗っているのでもエコは車まかせのところがあつたが、学ぶことは多かつた。若くもないのでスピードを出したりはしないが、車庫入れが下手になったり年齢による衰えは感じる」と自身に注意喚起していた。

エコドライブ教室は19日も同校で行われる。(浅野)